岩手山

○概況

火山活動は穏やかに経過しました。
黒倉山山頂の噴気の状態に大きな変化はみられませんでした。

地震活動の状況

火山性地震の月合計回数は 42 回で、３月と同程度でした（３月 44 回）。

・東岩手山（山頂付近）では、やや深いところ（深さ 10km 前後）を震源とする低周波地震が引き続き発生していますが、浅いところを震源とする地震は観測されず、全般に穏やかに経過しました。

・西岩手山（大地獄火口～姥倉山）では、５日に鬼ヶ城付近、17 日に犬倉山付近を震源とする地震が発生しました。ともに規模は小さく、その後の地震活動も増加するなどの変化はありませんでした。

・岩手山西側では、滝ノ上付近を震源とする地震が引き続き発生しています。

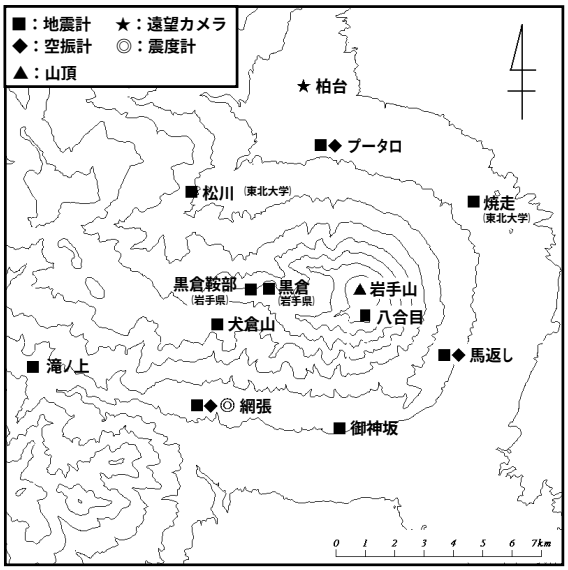
火山性微動は観測されませんでした（３月なし）。

モホ面付近（深さ 30km 前後）が震源とみられる低周波地震は、１回観測されました（３月９回）。

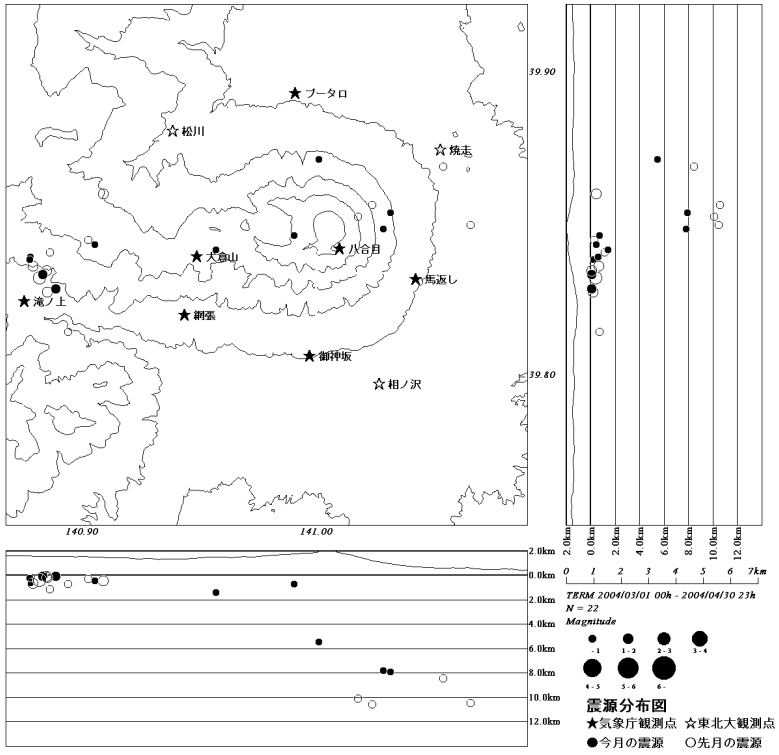
噴気活動等の状況

遠望観測（監視カメラ）による黒倉山山頂の噴気の高さは、５日に一時 100mを観測しましたが、その他の日はおよそ 10～50mで推移し大きな変化はみられませんでした。

３月 15 日、東北地方整備局の協力により行なった上空からの赤外熱映像観測でも、黒倉山山頂付近は 2002 年・ 2003 年の地温分布と比較して変化はなく、黒倉山から姥倉山の稜線沿いでも変化はありませんでした。また、５日に岩手県の協力により盛岡地方気象台が行なった機上観測でも、変化はありませんでした。



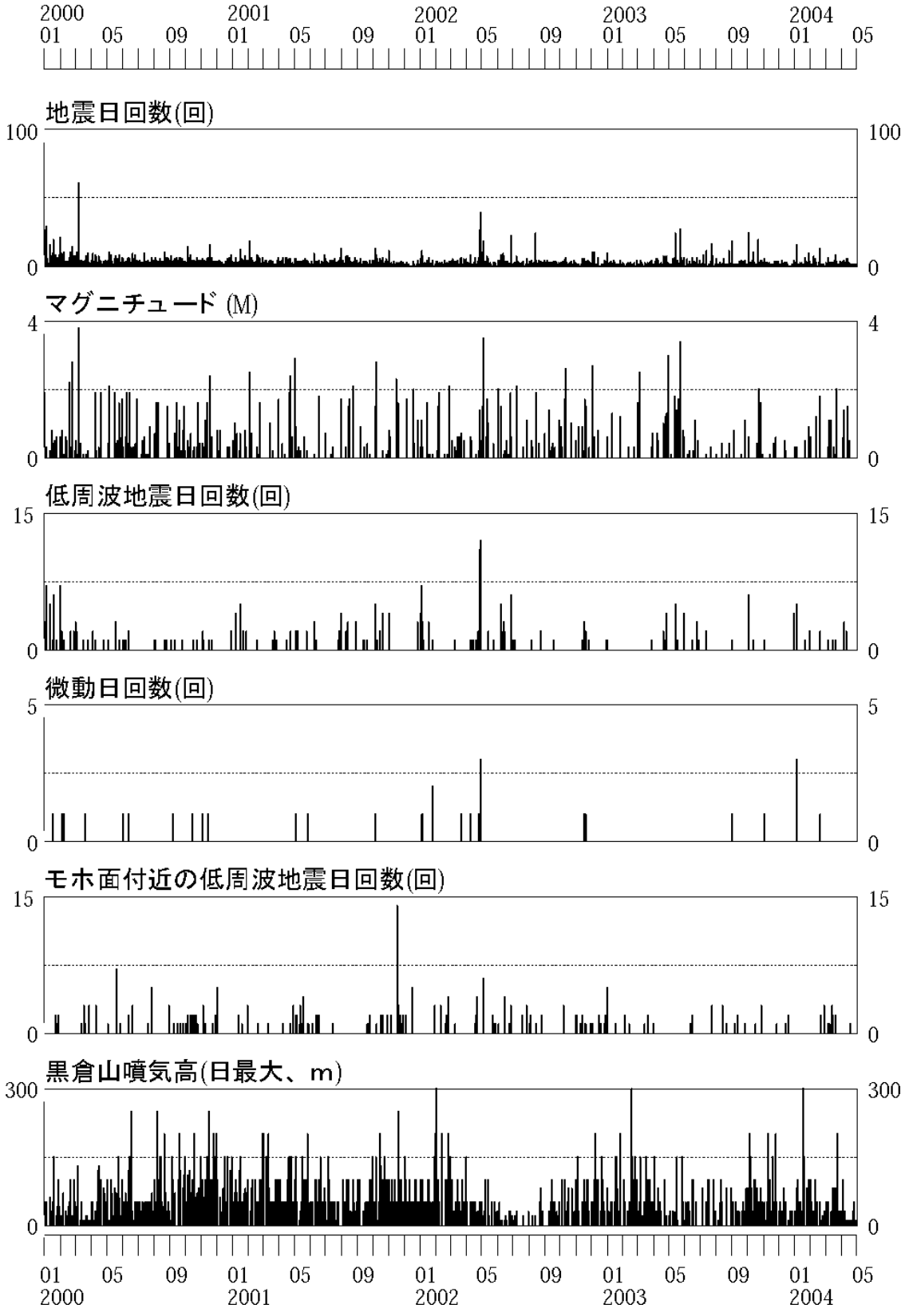
岩手山火山観測点配置図



岩手震源分布図(2004.3.1～2004.4.30)

岩手山　活動一覧

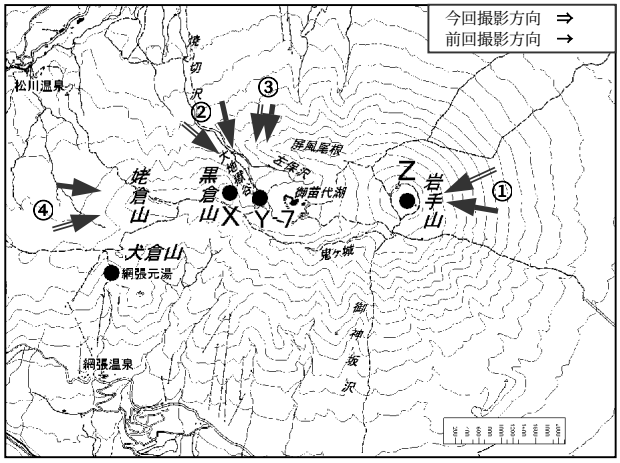
2000/01/01～2004/04/30



2004 年３月 15 日東北地方整備局ヘリによる機上観測結果（岩手山）

①岩手山山頂部（Z）

山頂部の妙高岳南東部、御鉢火口縁南東部の噴気地熱地帯は、平時から地熱による雪解けが見られます。今冬は山頂部の積雪が少なく、季節変化による雪解けも進行しているため地熱による融雪との境は明瞭でありませんでした。また、噴気等に変化は見られませんでした。一方、御室火口底には積雪が残っており、地温の異常は見られませんでした。山頂部全体の噴気地熱地帯は 2002 年と比べて大きな変化は見られませんでした。



岩手山現地観測点及び撮影方向

2004 年 3 月 15 日撮影

2002 年 2 月　自衛隊ヘリコプターにて撮影

②大地獄谷付近（Y-7）

主噴気孔の噴気の高さは約５０m。また、硫黄の昇華物が確認されました（赤〇印）。

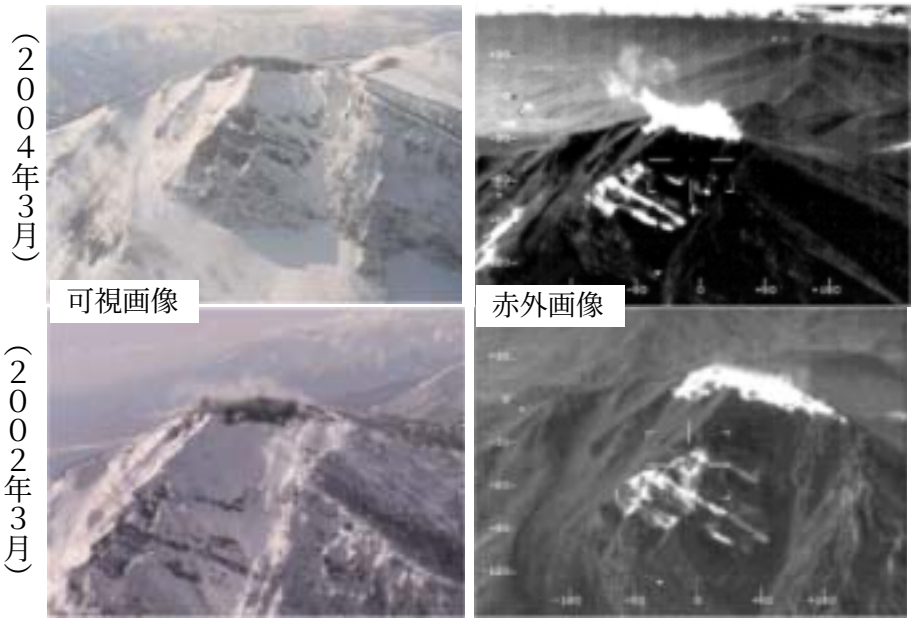
雪解けの状況と赤外カメラの映像から、噴気地熱地帯の拡大や新たな地熱箇所は見られませんでした。

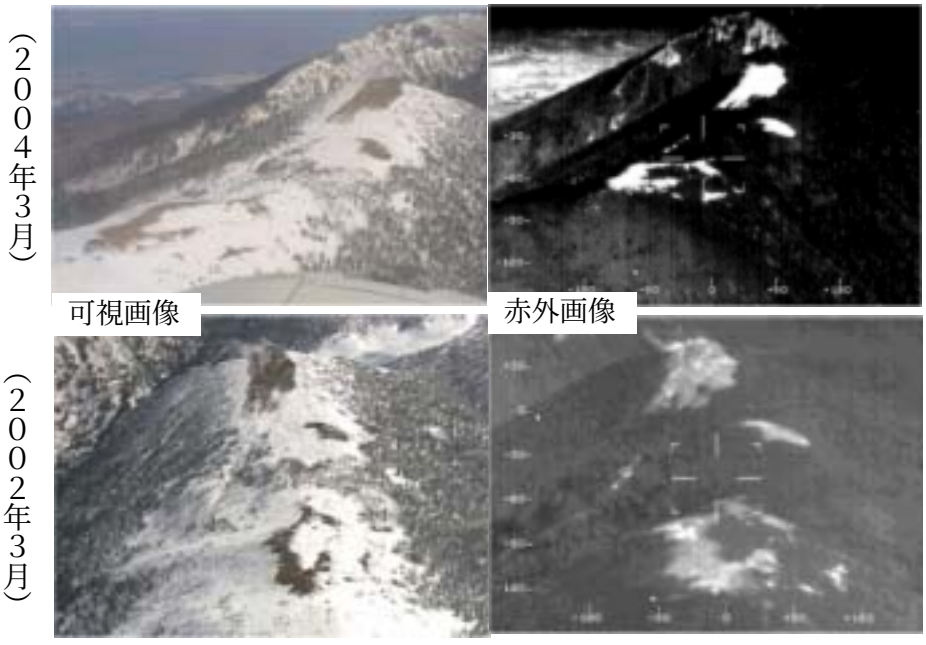
2004 年 3 月 15 日撮影

2002 年 2 月　自衛隊ヘリコプターにて撮影

③黒倉山山頂付近（X）

黒倉山山頂付近では高さ 50mの噴気を観測しました。これは気象庁の遠望監視カメラで観測している高さの平常時の値です。山頂付近の融雪域、噴気地熱地帯は可視画像、赤外映像とも引き続き観測されました。2002 年との比較では、融雪域や北東側の崖面の筋状に見える高温の領域に変化は認められませんでした。東側斜面の西小沢でも引き続き融雪が観測され、その様子は赤外線カメラによる観測でも確認されました。



④黒倉、姥倉山鞍部

黒倉山から姥倉山の鞍部の稜線上では噴気地熱地帯が帯状に広がっており、高さ約 10mの噴気が観測されました。これは平常時の値であり、前回と比較して雪解け箇所に変化は見られませんでした。また、赤外線カメラによる観測でも 2002 年と比べ地表面温度の高い領域に変化は見られませんでした。